



牧野陽子
Matsuno Yoko

〈時〉をつなぐ言葉
ラフカディオ・ハーンの再話文学

いま物語を語り直すことの
魅力と意味を解明

ハーンはなぜ、異文化の民話や伝説を再話したのか。
本作「雪女」「むじな」から「狐の嫁ぎ」まで、
そして第五のようになぞ編「安藝地方の夢」まで、
ハーン再話文学の魅力と意味をいさぎよく読み解かした力作評述。

新曜社
3990円

〈時〉をつなぐ言葉

牧野陽子著

ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の「怪談」を、古くから日本で伝えられてきた話と思っている人は多い。しかし、私たちの知っている「雪女」や「むじな（のっぺらぼう）」はハーンが日本の民話、伝承を語り直す「再話」で生み出したものだ。本書は、近代化により欧米の視線を内に抱え込んだ明治以降の日本人と、西洋人ハーンの想像力の世界が重なり合ったこと、その結果、再話作品が原話をしのいで「日本の民話」として根付いたことを明かす。